



三方よし(自分よし 相手よし みんなよし)

みなさんが意欲的になっているということは、学ぶことにみなさん自身が関心をもち、自分の将来と関連付けながら学習するということです。それは、みなさんの主体性を感じ取れる瞬間でもあります。そのプロセスにおいて「対話的な学び」があるのです。これからの時代は自分ひとりの力ではなく、他者との協働を繰り返しながら考え抜くことが必要不可欠であることから、「対話的な学び」はとても大切であると考えられています。つまり「対話的な学び」は、生徒同士のコラボレーションや、学内外の他者との対話を通じて視野を広げていく学習であり、お互いの考え・意見の違いを乗り越えて問題の解決を目指すことです。その際、合意形成を目指していくこととなります。それは、お互いができるだけ満足できる合意です(納得解)。これは、相手と話し合うだけの「会話的」とは違い、「対話的」には真剣さと緊張感があります。

私は、この学びのプロセスに関連付け、「三方よし」の言葉をよく使います。商売の利益交渉などでは、自分だけがすべてを獲得して相手に何も与えないという交渉ではなく、自分の利益と相手の利益を反映させ、まわりの関係者にも配慮した合意形成をすることが最も優れた交渉といわれています。これを日本では昔から商売の道徳として、「三方よし」という言葉で言い表してきました。

「三方よし」とは、自分よし、相手よし、世間よしということです。この「三方よし」という発想を相手に理解してもらうには対話の技術(コミュニケーション力)も必要になります。よって私は人が集まる学校という場での学びのプロセスとして、この「三方よし」を「自分よし 相手よし みんなよし」という言葉にしています。

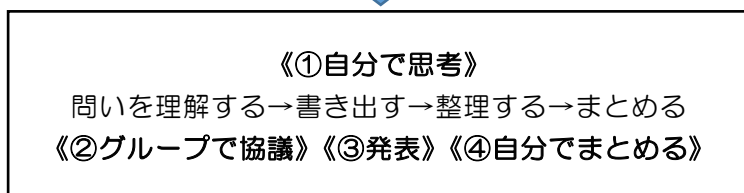
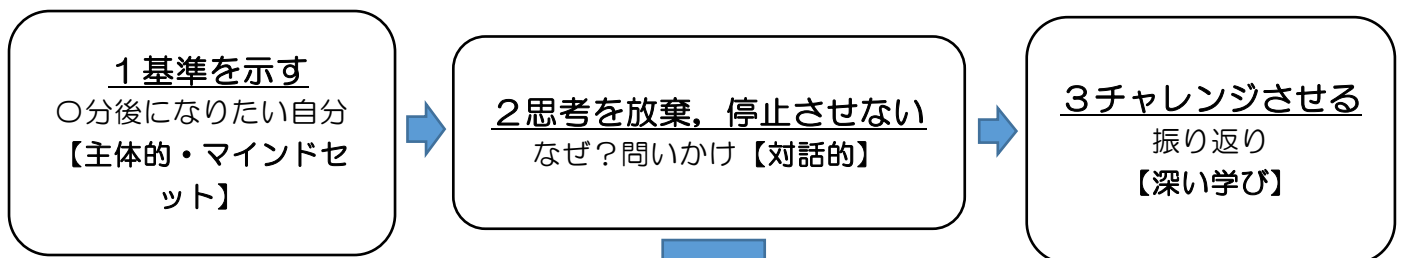
これからの激動の時代・場面においては、自分ひとりの力ではなく、他者と交渉や協働を繰り返しながら考え抜くことが求められます。板ばさみや想定外を乗り越えながら「深い学び」へとつながっていきます。生徒たちが、学校行事を成功させるときなどもそうです。

本年度の「女学院祭」もまさに「三方よし」の取組だったと思います。実行委員のみなさん本当にお疲れさまでした。(特に1日目の校内発表は、生徒よし、教師よし、みんなよしの三方よし・笑)

この「三方よし」の「自分よし・相手よし・みんなよし」の言葉は、私たちの学校生活において、何回も何回も自分の身体の中を通してほしいと思います。

下の図は、私が3年前に本校に赴任した時から、本校の授業をはじめとする全教育活動における学びのプロセスを示したものです。

【ミッション・アクティブラーニング・学びのプロセス】



(学校長 重枝 一郎)